

洞爺湖ビジターセンター 2015年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

8月29日(土) 洞爺湖の水しらべ

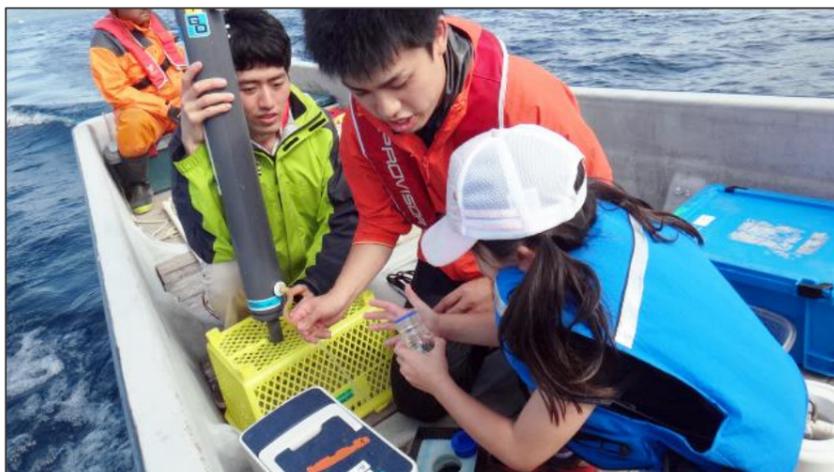


日差しは暖かくも吹く風がひんやりとしてきて、洞爺湖でも秋の始まりを感じさせる時期となってきました。良く晴れた空のなか、洞爺湖ビジターセンター8月の自然ふれあい行事、「洞爺湖の水しらべ」を酪農学園大学 環境地球化学研究室のご協力のもと行いました。

今回の行事はビジターセンターの中で洞爺湖や何のために水を調べるのかを学習したあと、洞爺湖に船を出して研究室のみなさんが行っている調査を体験し、水と地球環境について考えました。



洞爺湖の沖まで出て水をとりまわ。湖の表面だけでなく、湖の深いところがどうなっているか知りたいのです。



湖の深いところの水を引き上げたあとはビンにうつして分析をします。今回は水温だけ測りました。

まずは洞爺湖についてのクイズを行い、湖のことにくわしくなってもらいました。吉田磨准教授のお話があり、調べるのは何事も中身を見ることが大事だと教わりました。湖でいう中身とは、水の中の深いところなんです。そこを詳しく調査するために、ニスキン採水器という道具で深いところの水をとります。行事でもニスキン採水器を使用し、船に乗って深いところの水をとりに行きました。船に乗るとみんな笑顔。あらためて洞爺湖のキレイさに気がつく方もいらっしゃいました。採水作業も学生の方にサポートしていただき、無事に洞爺湖水温の鉛直分布図を作成することができました。

ビジターセンターに戻ったあとは、吉田磨准教授から、水と地球温暖化の現状についてのお話がありました。水中には二酸化炭素がたくさん溶け込んでいたり、海底がメタンの発生源になっていたり、ここ数年で地球温暖化が急激に進んでいたり、普段は聞けないようなお話に、参加者のみなさんは興味津々でした。地球上で暮らすには、自然のことを知らなければなりません。さまざまな様子や状態を見せてくれる自然を理解するには、さまざまな研究や知識が必要です。今回の行事では酪農学園大学環境地球化学研究室のみなさんに、自然を知ることの大切さを教わったような気がします。



研究のための採水で使われる道具も子どもたちにかげればおもちゃに早変わり。水も測るいろんな道具とふれあいました。

